

「勉強は贅沢だ」そんな言葉を僕は幼い頃から知っている。小学生の頃までは何のことかさっぱりだった。何故なら、週五日で学校があるだけでなく、学校から毎日、沢山宿題を出されるため、当時は勉強なんてうんざりだと思っていた。やりたくもない勉強をやらされているだけで、勉強が贅沢だと感じる余地など、どこにもなかった。しかし、今なら分かる。なぜ勉強が贅沢なのか、それは小学校も中学校も税金のおかげで通えているからだ。公立の学校は税金で成り立っているし、教科書や資料集などの教材も税金が僕たちに買ってくれたものだった。勉強をするには「勉強をするための環境」、「勉強をするための道具」、「勉強を教える先生」と、なくてはならないものが沢山あり、それらは全て税金が用意してくれていた。「勉強は贅沢」、その通りだと思う。見えないだけで僕たち一人一人には、とても沢山のお金がかかっている。

なぜ国は僕たちに、そこまでお金をかけるのだろうか。文部科学省のホームページには「義務教育は、国民が共通に身に付けるべき公教育の基礎的部分を、だれもが等しく享受し得るように制度的に保障するもの」と書いてあった。僕はその言葉の意味を、「義務教育は、次の未来を担う子供たちに正しい知識を身に付けてもらい、より豊かな日本を創っていくためだ」と捉えた。「僕もその一人」、そういう意識が芽生えると同時に、「そのお金を無駄にするまい」と、なんだか勉強に前向きになれた。そして僕が今、こうして整った環境で勉強ができるのは、今も日本中の人たちが正しく納税を続けているからだ。

考えてみれば簡単なことだった。世界には勉強がしたくてもできないような子供たちが沢山いる。その子たちに比べて、勉強の大切を忘れてしまうほど勉強をすることのできる環境にいる僕は贅沢だ。それに税金に支えられた生活は義務教育に限った事ではない、自分の住む街に住民の求める施設や公園ができるのは税金が使われているからだ。税金には本当にお世話になっているし、これからも税金に支えられていくことだろう。

普段は納めることが前に出てきて、あまり良いイメージのない税金だったが、納めた先にある税金の「使い道」を知ることができ、僕は税金を納めることで、まるで投資をしているように思えた。僕もこれから大人になり、今より多くの税金を納めることになるだろう。その時は今まで日本中の人たちがしてくれたような正しい納税で未来への投資をしていきたい。

より良い社会がきっと待っているから。